

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日22年11月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104506
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム 小野の里
所在地	鹿児島県鹿児島市小野二丁目10番18号 (電話) 099-220-7070
自己評価作成日	平成22年9月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パーソンセンタードケアを基本に利用者の思いや気持ちを考え、したいこと・出来る事をいっしょに選択しながら穏やかに生活できるよう職員全体で支援している。本人様が持っている機能を生かしながら役割を持って頂いたり活動をしたりし表情豊かに生活される入居者様も多くお互いに有難うの言葉が行き交う温かいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員の見守りの徹底と工夫により安全面が確保され、利用者はゆったりと自由な暮らしを行っている。
- ・生活リハビリの歩行練習用に、床に目印のテープを貼るなどして、視覚で認識しながら、歩行困難者が自立歩行へと改善され、本人や家族等に喜ばれている。
- ・管理者や職員は資質向上の意欲が高く、資格取得に向け努力している。
- ・職員は、利用者の体調にあわせ、自立支援のケアで日々向上を目指しかかわっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝理念を復唱し理念を共有したうえで実践へとつなげている。	グループホームの意義と役割、地域でその人らしく暮らし続けるための理念を作り上げている。理念をパンフレットやホーム便りに掲載し、玄関やホールに掲示している。朝礼で理念を復唱し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の町内会に加入している。総会に出席したりホームの行事にも参加していただけるよう案内を出している。(避難訓練等)	町内会に加入し、清掃作業・廃品回収・子ども会活動・小学校行事に参加している。また、ボランティア訪問や回覧板配布・近隣住民からの相談を受けるなど、地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症のご家族を抱える方々の相談を受けたり高齢者サービス利用のお手伝いや説明・案内にも取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容の報告行事などの意見・本人家族のつぶやきなどを話し合いながら日々の介護に生かしている。	利用者の状況報告やホームの問題点・改善事項・地域情報に関して、貴重な意見が出されている。ホーム便りにもっと写真の掲示を等の意見をもらい改善し、サービスの質向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村の主催する勉強会や説明会に参加したり介護上の疑問などについても随時電話等で相談意見をもらうようにしている。	入居者の暮らしぶりやホームの取り組み等を報告し、情報交換をしている。市主催の研修会に参加する等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会を毎月実施し具体的理解が図れる様になっている。又カンファレンスなどでも話題に上げたりし拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、工夫の事例や課題に基づいて研修を行っている。玄関は施錠をせずに細心の気配りを行い、利用者は自由な暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会やミーティングを実施し高齢者虐待防止法に関する理解を深めたり日々の業務での遵守に向けた取り組みを行ったり検討したりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の研修に参加したりしている。職員にも研修の内容を伝えたりミーティングなどでも職員の理解を深めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は一緒に契約の内容・重要事項説明書の内容を確認している。ゆっくり分かりやすく説明している。表情などもみながら合間に理解・納得・了承をもらいながら進行している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に意見箱を設置している。外部に意見が届くようポスターを掲示したり面会等でもいつでも意見が言えるような雰囲気作りをしている。	ホーム便りや通信・モニタリング等で問いかけをして、意見や要望を聞く工夫をしている。出された要望等は、ミーティング等で話し合いを行い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス時職員の意見を聞いたり日々職員が意見を言えるような関係作りに努めている。また個々にも面談を行い思うこと悩むことなどなんでも話せる時間を設けている。	日常的に、職員からの意見を聞く機会を設けている。また個人面談を行い、相談に応じたりして、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行なっている。取得後は労働条件に反映させ職場内で生かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部等より来る研修の案内を朝礼等で紹介し職員へ受ける機会を提供している。声を掛けながらなるべく多くの職員が受講できるように支援している。又報告書を作成してもらい会議などで職員に報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連事業所や他事業所との意見交換や見学研修等を通じサービス向上が図れる様取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所希望の面談時等に生活状態を把握するよう努めている。必ず本人様に会い困っていることや不安なこと、思いをゆっくり聞いたうえで本人が安心して生活出来る関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の思い・困っていることや不安をゆっくり聴いたうえでどのような対応が事業所として出来るか話し合っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人や家族の思い・状況を確認し改善に向けた支援の提案を行ったり、早急な対応が必要な相談者には他サービス機関へつなげるなどしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員・入居者がお互い協働しながら穏やかで和やかな生活が出来るような関係作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や便りなどで日々の出来事や気付きをお伝えしている。情報共有に努め家族と同じような思いで支えていることを伝えている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が利用している美容院に行っている方や外出の際近所や家族の方とゆっくり過ごしていただいている。またホーム訪ねてこられるなじみの方も歓迎している。	利用者の要望に応じて、馴染みの理美容院・墓参り・自宅訪問等をしたり、知人や友人・身内の来訪の呼びかけや馴染みの人との交流支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人様が出来るコトを中心にお互いが支えあえるように職員は調整役として間に入ったりして支援している。また利用者同士の関係を把握し職員間で情報を共有することに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等に見舞いに行くなど退去後の情報を把握し相談にも応じたりして支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時や面会時に家族や本人より希望や意向を聞いている。日々のかかわりや記録から把握に努めたり行動や表情より推し量ったり確認したりしている。	食事・着物・入浴などの日々の関わりや表情や言動からの把握や家族からの情報から察知している。得られた情報は職員と共有して思いや意向に応えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族やケアマネージャーより把握したり入所後も本人にかかわる方などが面会の際などに情報を頂いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し介護記録の情報や職員からの情報など全員で確認し全体像を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にかかわりの中で思いや意見を聞きプランに反映させるようにしたり、職員でカンファレンスの際など意見交換・モニタリングを行い介護計画に生かしている。	担当医師の意見も活かしながら各面からのモニタリングを行っている。本人や家族・職員の意見や状況を反映し、本人本位のプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員の気づきなどを個別に記録に残し職員の情報共有を行なっている。又記録を生かしケアプランの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて病院受診などの介助を行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるようボランティアや消防署との連携なども行なっている。又希望にあわせ商店に買い物にでたり図書館に出かけたり移動パン屋を利用したり出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関・利用者のかかりつけ医での往診・受診が受けられるよう家族と協力している。	本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、応診の継続支援と協力医療機関との連携体制もできている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化や表情などを見逃さないようバイタルチェック表を活用し早期発見に努めている。記録をもとに職員の連携をはかっている。変化等あれば協力医療機関の看護師などに相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と連絡を密に行なったり入院先に職員が面会に行ったりして病院の情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について家族と十分に話し合いを行なっている。本人の気持ちを大切にしつつ状態変化などある場合は都度家族の意思を確認しながらかかりつけ医とも連携を図っている。	重度化や終末期について、家族や主治医・看護師との話し合いがされているが、方針の確定はこれからである。	重度化や終末期について、ホームが支援できる方針を定め、家族等や職員が共有することを期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練などに応急処置・手当の勉強会を計画している。緊急連絡簿を各階作成したり緊急時の対応マニュアルを整備したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。訓練に際しては案内出して参加呼びかけたり協力もらう形でお願いしている。	消防署の協力のもと、昼・夜間想定や風水害の避難訓練を実施している。近隣住民には参加呼びかけの案内を行い、協力体制も整いつつある。災害時の備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が表情や行動を見て本人の気持ちや意思を大切に考えた上で声かけや対応をするように配慮・支援している。	利用者の尊厳に対する勉強会を行い、職員の意識向上を図っている。誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況・状態に合わせて声かけの中に複数の選択肢を設け自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子を見ながら会話の中で本人の希望を尋ねたり相談しながら個別性のある支援を心がけている。(外出・買い物・入浴等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴前や着替えが必要なときなどは選んでいただいたり一緒に考えて選ぶなどしている。家族の協力などもらいなじみの理美容の利用もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けを一緒に行なったり同じテーブルで楽しく入居者・職員で食事を頂いている。	利用者の身体状況に合わせた食事形態や好みの献立等に配慮し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し毎日の水分や食事量を把握している。本人の嗜好等も考慮しその方にあった飲み方や食べ方が無理なく出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて食後に声かけをし行なっている。うがいやガーゼを使用したりしてケアしたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。尿意のはっきりしない方でも時間・パターンを考えて出来るだけトイレにお連れするようにしている。使用しているパンツ・パットの検討を適宜している。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を心がけている。オムツ使用の軽減に取り組み、布パンツ使用を目標に自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で飲食すること・活動すること・気持ちよく出すことを共通理解し個人の興味あることや出来る事に参加を促している。手作りヨーグルトを食べたり毎朝牛乳を提供したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望（回数・時間）を聞いた上で入浴を支援している。ただし午前から夕方までお願いしてあります。	個人別の入浴日を決めているが、一人ひとりの習慣や希望に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や表情・言動を観察しながら希望も考慮してゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の説明書を毎回綴じ都度確認を行なっている。変更や指示出た場合申し送り事項に記録し伝達。日勤・夜勤の責任者決め手渡し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様が出来る事を職員も理解しお願いできる仕事を手伝っていただいている。常に有難う、すごいなどの言葉をいれ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行困難な方でも車や車いすを利用して一緒に出かけている。行事などでもお弁当を頼んだりして戸外でも楽しめるよう企画している。家族の協力ももらい個別で一緒に外出していただいている。	日常的に散歩をしたり、買物・図書館・寺参り・ドライブ・外食・花見・ソーメン流しなど、車椅子利用者も気軽に出かけられるように機会づくりを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を頂いて手元に持っていらっしゃる方もいる。事業所で保管されている方も外出や買い物の際などお渡ししたりして一緒に支援したりもしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様へかかってきた電話等いつでもつないでいる。また、かけたいときにもかけていただき電話の位置などにも配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂のテーブルの他ソファや和室に座卓を配置しゆっくりくつろいでいただいている。また季節季節の花を生けていただきながら玄関・食堂などに飾ったりして季節感を取り入れている。</p>	<p>採光や音・換気に配慮がされ、テーブルやソファ等があり、団欒のコーナーになっている。近隣住民の生活音や暮らしぶりに触れる事のできる環境で、居心地の良い家庭的な共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や玄関などにくつろげるよういすを配置し利用者同士で過ごしていただいている。ソファやテーブル・座卓などの配置などにも配慮し必要に応じてゆっくり出来るよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前などにご家族・本人に相談・説明行い出来るだけ馴染みのものを持ち込んでいただいている。テレビ・冷蔵庫・仏壇など個人で配置し写真などが飾られ心地よい空間になっている。</p>	<p>位牌・テレビ・家族写真・タンス・寝具・三味線・シルバーカー・作品等が持ち込まれ、それぞれ個性的な居心地のよい居室である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人のつぶやき、身体・活動の状況に応じて都度職員で話し合っている。本人様がよく理解できる表示の仕方や声かけの中身を工夫したりして自立した生活ができるよう支援している。</p>	/	

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない